

平成25年度全国高体連自転車競技専門部 委員長会議

期 日 平成26年2月15日

会 場 成城高等学校会議室

- 1 専門部部長挨拶 川邊 哲 部長
- 2 議長選出 規約により専門部部長が議長を務める
- 3 議事録署名人指名 渋川 敦志氏（神奈川県）
- 4 定足数の確認

出席37名 委任状10名 定足数を満たし、会議の成立を報告する。

- 5 インターハイ謝辞 大分県委員長 塚崎邦嗣 氏

6 審議事項

- (1) 平成25年度事業報告（案）について（別紙資料）事務局

→ 一部訂正あり、承認

- (2) 平成25年度中間決算（案）について（別紙資料）

→ 原案の通り、承認

- (3) 平成26年度事業計画（案）について（別紙資料）

→ 一部訂正あり、承認

- (4) 平成26年度収支予算（案）について（別紙資料）

・JKAからの補助金も収入に入れて予算を組んでいる。

・JKA事業の立て替え金が必要なこと、また年度当初の財源の余裕が必要なことにより、来年度も各県からの賛助金をお願いしたい

総務部会長

・ブロック合宿はJKAからの補助金を受けて実施しているが、補助金の一部支払いが遅れ、立て替えが発生している現状があり、補助金を受けて実施するか、しないか、各ブロックで検討してほしい。

強化育成部会長

・26年度ブロック合宿もできる限りオムニウムを実施していただきたい。

→ 原案の通り、承認

- (5) 総務部会提案 → 報告事項へ

・専門委員長が所属する高校が専門部加盟校ではないという問題がある。（長野、沖縄）

そのことで、専門部加盟校登録手続き、大会時参加申込み書手続きなどに支障をきたしている。

規約に則り、加盟校より委員長を選出していただきたい。

- (6) 競技運営部会（別紙資料）

・標準タイムの見直し案について（別紙資料）

タイム計測種目の標準タイムを見直し、出場選手数の制限を検討した。

チームプリントは大分インターハイで30チームと予想を遙かに超えたため、20チームになるよう検討した。

- ① (変更前) → (変更後)
- | | | | |
|------|----------|---|----------|
| 400m | 1分24秒000 | → | 1分22秒920 |
| 333m | 1分09秒500 | → | 1分8秒800 |
| 500m | 1分45秒000 | → | 1分44秒210 |
| 250m | 52秒000 | → | 51秒550 |

- ② 1kmTT、3kmIPについても見直しを検討
- 1kmTTは、1分12秒000 → 1分11秒700へ
- 3kmIPは、3分50秒000 → 3分47秒000へ

- ② チーム・パーシュートは、現状のままで変更なし。 <承認>

(7) 強化育成部会

別紙資料報告、提案事項なし

(8) 平成26年度全国高校総合体育大会 (別紙資料)

ア 実施要項 (競技運営部会・山梨県実行委員会)

→ 原案通り承認

イ 競技日程について (理事長)

- ・早朝練習の廃止と競技日程の変更について
- ・山梨インターハイでは実行委員会からの要望で早朝練習をやめようと考えている。
理由として、早朝練習のために役員を早朝4:30に集合しなければならず、非常に難しい。
- ・また競技日程の中で熱中症対策のため、役員休息の昼休みをしっかりと取りたい。
- ・大会開催は開催地実行委員会の協力なしにはできず、これまで通りのやり方を変更しないと理解と協力を得られないと感じる。その対応として、公式練習を大会前に設定し、その時間で練習していただく。

ウ 女子公開競技 (理事長)

- ・JKAから補助金1人当たり5万円×30名分補助していただける。
- ・実施種目、選手選考方法については25年度と同じ方法で行う。前年度選抜大会8位入賞者、当該年度各ブロック大会の500mTT、2kmIPのタイムで上位者を選考する。

→ 原案通り、承認

(9) 平成27年度以降事務局について (総務部会)

総務部会長

- ・事務局運営の負担が以前に比べて大きくなっている。特にJKA補助金に関する業務が煩雑かつ専門性が必要である。したがって、業務の仕分けをした上で、事務局の固定化が望ましいが、もしできなければ、これまで通り輪番制となる。

理事長

- ・事務局の現在の業務では負担が大きいため、事務局の各業務を明確化して、業務精選と業務分業化をしないと簡単には受けてもらえない。

したがって、業務精選をした上で、固定化が理想であるが、それが不可能であれば、これまで通

り輪番制で回していくこととなる。JKA 事業専門だけでもしていただく方が欲しい。具体的決定は理事会となるが、そのことについて委員長会での承認を得たい。4月理事会までに事務局業務の仕分けを行い、同時に事務局固定化も検討する。その最終決定の目標は26年度12月としたい。

各ブロックからの意見交換

【北海道・東北】

- ・日本の中心で固定化が理想。無理なら輪番制。

【関東】

- ・固定化が理想。輪番制の話は全員出席していないのでできない。

【東海・北信越】

- ・以前の輪番制で北信越にしてもらったので、今度は東海が受ける
- ・専従の雇うのであれば、加盟校が事務局員手当を払う。

【近畿】

- ・固定化が理想であるが、2年交代でなく、4、5年の期間とする。
業務の分担化を行う。事務局会議を設けて事務局の引き継ぎを行う。

【中国・四国】

- ・事務局手当の要望、事務局長の時間軽減をお願いし、負担を軽減する。
- ・部長はインターハイ開催県部長、1年交代制。

【九州】

- ・輪番制であれば、順番はリセットする。
- ・理事会に一任する。

まとめ

総務部会長

- ・4月理事会までに業務内容の明確化を行い、8月の委員長会議では方向性を示す。
12月の理事会では決定する。以上のスケジュールで進めていくことに了解いただきたい。

(10) 一次登録の遵守と専門委員長の規約について (総務部会)

提案でなく、確認事項として

- ・規約では、専門部登録加盟校の中から委員長を選任する、となっているが、専門委員長が所属する高校が専門部加盟校ではないという問題がある。(長野、沖縄)
規約に則り、専門部加盟校より委員長を選出していただきたい。

(沖縄委員長)

- ・沖縄高体連は、「各県高体連は全国高体連に分担金を払っている。全国専門部は全国高体連から補助金という形で入っている。したがって、各加盟校が払ったお金の一部ではあるが全国専門部に入っているため。全国高体連の下部組織である全国専門部に負担金を払えない。」との見解である。
- ・現在、沖縄委員長は県高体連会長から任命されており、それに対して、全国専門部から指摘を受けることではないと考える。

沖縄は加盟校の顧問の入れ替わりが激しく、はじめての顧問が多いため、運営上、選手がいない学校の教員が引き受けていることで安定した運営ができている現状があることを理解していただきたい。

(部長、総務部会長)

・すぐに専門委員長を交代と言うことではなく、規約に沿った形で専門委員長を決めて頂く方向でお願いします。

(1 1) 山梨インターハイ競技日程の変更

・トラック、ロードの会場が同じで移動が伴わないので、トラック競技種目の一部変更
資料大会要項 2 ページの競技日程 7.スクラッチ予選は 2 日目へ、17.1kmTT、19.スクラッチ決勝は 3 日目へ、したがって最終日は競技が 90 分下がる。

7 報告事項

(1) 平成 25 年度全国選抜大会について

ア 大会参加案内 (総務部会)

- ・HP にアップされているので確認をお願いします。
- ・練習日と練習時間、練習形式 (男女別)、各県ピット位置など

イ 大会特別規則 (競技運営部会)

- ・HP から印刷して持参し、監督会議に参加してください。
- ・自転車ポジションに関する規則 (2014.1.1 改訂の変更点のまとめ)
- ・紡錘形 (流線形長さ と 径の比が 3 を超える) の装置の使用について
大会の出場、順位を認めるが、日本記録が出たときは公認にならない。
- ・ジュニアのギア比上限を超えないスプロケットの使用をお願いします。
リア 11 段が発売になるが、トップ 14T のスプロケットは販売しないので注意していただきたい。
- ・競技規則解説改訂版について

質問：急にダメといわれてもすぐに対応できないところもある。使用機材の規制の今後の見通しについてどうか。

回答：JCF 競技運営委員会と調整しながら、猶予期間等検討する。

ルール違反に対しての罰金は取らないが、記録更新は認められない。

高体連は、すぐにはダメであるとし、状況をみながら判断していく。

国内の大会で運用が異なることもあり得る。

意見：国際大会でも大会ごとにその判断は異なる。厳格にみる場合、柔軟に対応する場合それぞれ持ち合わせて混乱しない運営をお願いしたい。

(2) JCF 諸会議の報告について (理事長)

・H28 岩手国体からの女子種目導入について

女子種目の決定、団体出場チーム数の制限、競技日程の検討、男子実施種目の検討、朝練習廃止など

- (3) 全国高体連諸会議の報告について (部長、理事長)
- ・総体経費削減実施計画の策定・・・大会日程 4 日以内、運営機材の共有化
ロード競技の分離化、など自転車専門部はすでに取り組んでいる。
 - ・体罰の根絶について・・・各顧問の理解と協力を求める。
 - ・加盟登録費値上げについて・・・全国高体連事務局の創意工夫を要望し、値上げについては反対。
- (4) 日韓対抗学生自転車競技大会について (理事長)・・・別紙資料
- (5) 平成 26・27 年度全国高校選抜大会について (理事長・総務部会) 別紙資料
- ・北九州市ロードコースの問題、会計決算法の違いの問題、等で県内開催を原則に公募制を実施。
 - ・公募の結果、熊本県と福岡県が立候補し、各自治体と調整、検討した。
最終的に単年度でなく、2 カ年の契約で熊本県開催に決定した。
今後は、開催地を固定することは考えず、再度開催地を公募していきたい。
- (6) 平成 27 年度全国高校総合体育大会について (理事長)
- ・大会日程、会場トラック (岸和田)、ロード (三重県鈴鹿サーキット) は決定。
実行委員会はまだ立ち上がっていない状況である。
- (7) 第 6 回全日本ステージレースについて (理事長)
- ・26 年度は 9 月 5 日 (金) ～7 日 (日) に実施予定。
 - ・第 3、第 4 ステージは同じコースであるが、26 年は第 3 ステージはチームロードを提案している。
- (8) 各専門部より
- 総務部会
- ① 予備登録選手の取り扱い
ロードの予備登録はトラックのみエントリー選手、トラックの予備登録はロードのみのエントリー選手となる。それぞれ予備登録起用はチーム内の事情によるもので、ブロック大会の参加を問わない。
 - ② ユニホーム登録について
 - ③ ブロック大会時のプログラム販売について 特に専門部としての規制はない。
- 競技運営部会
- ① 全国選抜大会の審判長は寺崎豪紀先生 (神奈川・法政二高)
 - ② 部会活動内容報告
 - ③ 競技役員のスキルアップ (1 級審判受験) に対するサポートについて
- 強化育成部会
- ① 部会報告 (別紙資料)

② 冬期トレーニング（ローラー、PMAX を使用）の実践例について

要望：ジュニア高体連合宿でブロック選手から外れた選手が参加し、その後強化指定になっていた。他選手への説明として合宿参加基準や強化指定基準について説明できる資料を要求したい。

(9) その他

質問：インターハイ 1kmTT、3kmIP のブロック選出枠制限はあるか。

回答：今年度通り、ブロック選出枠数を超えないこと。

事務局連絡

- ・山梨インターハイからゼッケンにスポンサーがつく。